

第3章 教育及び研究

3.1 教員及び教育支援者

〔現況〕

本校の一般教育課程の運営実施に必要な教員は確保され、高専設置基準を満たしていると認識しています。(資料3-1-1「教員配置状況」)特に、本校では、教育の特色化を図るためネイティブの英語教員を多く配置しています。(資料3-1-2「教員(一般科目・学科別)配置状況」)

(資料3-1-1)

「教員配置状況」(平成21年5月1日現在)

準学士課程担当教員

(単位：人)

	専任教員														非常勤講師	技術職員	教員の現 うち博士 号取得者		
	教授			助教授			講師			助手			計						
	定員	現員 男	現員 女	定員	現員 男	現員 女	定員	現員 男	現員 女	定員	現員 男	現員 女	定員	現員 計					
一般科目	-	7	0	-	4	3	-	5	2	-	0	0	-	16	5	21	5	-	0
専門科目(学科合計)	-	16	0	-	6	1	-	3	0	-	0	0	-	25	1	26	1	-	12
電気情報工学科	-	5	0	-	2	0	-	2	0	-	0	0	-	9	0	9	0	-	5
機械工学科	-	6	0	-	1	0	-	0	0	-	0	0	-	7	0	7	0	-	5
国際コミュニケーション 情報工学科	-	5	0	-	3	1	-	1	0	-	0	0	-	9	1	10	1	-	2
合計	-	23	0	-	10	4	-	8	2	-	0	0	-	41	6	47	6	-	12

(資料3-1-2)

「教員(一般科目・学科別)配置状況」

平成22年度一般科目教員の専門分野と担当授業科目

職名	氏名	学位	専門分野(職歴など)	担当授業科目
教授	向井 守	M.A	TESOL	日本文化、総合英語、世界事情
教授	青木 敏彦	修士	数学	線形代数、微分積分、応用数学、数学特論
教授	大原しのぶ	M.A	TESOL	総合英語、国際英語コミュニケーション、英語資格技術
教授	ゲイロードドリン	M.A	TESOL	英語スキルズ、英語発表技法、英語総合技術、上級英語
教授	寿時 廣	準学士	英語	総合英語、外国事情、英語発表技法、世界事情
教授	作宮 和泉	修士	応用物理学(大学講師)	応用物理
教授	瀧本 明弘	学士	体育方法学(大学助教授)	保健体育
准教授	氏家 亮子	修士	数学教育	基礎数学、線形代数
准教授	大崎 富雄	修士	国文学	国語、倫理
准教授	陳 ウィ	学士	美術	文化・芸術・思想、中国語、デザイン概論
准教授	原 孝美	学士	化学(大学助手)	物理、化学、応用物理
准教授	松下 臣仁	M.A	TESOL	総合英語、英語発表技法、英語総合技術、英語コンピュータリテラシー、時事英語
准教授	松本 昇久	修士	計算幾何学(高校教員)	基礎数学、応用数学
准教授	宮野 純光	修士	日本中世史	歴史、政治経済、世界史
講師	木原 均	修士	情報科学(大学院大学研究員)	微分積分、応用数学
講師	グリーンジェームス	B.A	TESOL	英語スキルズ、英語総合技術、上級英語
講師	スチーフソソリアン	M.A ,M.A ,MBA	TESOL、政治学、経営管理	英語スキルズ、上級英語
講師	クワンセホアン	M.A	TESOL	英語スキルズ、英語発表技法
講師	ダミーコルカス	M.A	TESOL	英語スキルズ、英語作文技法
講師	ピンチードゥーガン	M.A	TESOL	英語スキルズ、上級英語
講師	フォーブセラ	M.A	TESOL	英語スキルズ、上級英語、英語発表技法
講師	山崎 梓	修士	日本近世文学(高校講師)	国語
助教	谷口 航	学士	土木工学(工業高校講師)	物理、化学
助教	山口 真史	学士	体育方法学(高校講師)	保健体育

平成22年度専門教員の専門分野と担当授業科目(電気電子工学科)

職名	氏名	学位	専門分野(職歴など)	担当授業科目
教授	直江 伸至	工学博士	電気機器	送配電工学、電気回路、科学技術史、創造実験、卒業研究
教授	香林 利男	工学博士	電気機器	電気回路、パワーエレクトロニクス、創造実験、電気法規と施設管理
教授	土地 邦生	学術博士	光物性と材料物性(企業社員)	電子工学、材料工学、創造実験、コンピュータ、卒業研究
教授	松本 裕	修士	誘導システム(大学教授)	デジタル回路、制御工学、データ通信ネットワーク、創造実験、卒業研究
教授	南出 章幸	博士(工学)	計測工学	コンピュータ、情報工学、創造実験、電子回路、電気磁気学、卒業研究
准教授	藤島 悟志	博士(工学)	分子情報工学(大学院大学助教)	情報工学、数値計算、ソフトウェア工学、アルゴリズム、コンピュータ演習、卒業研究
講師	諸谷 徹郎	修士	電波伝搬、制御(企業社員)	電気磁気学、メカトロニクス、システム工学、工学演習、創造実験、卒業研究
講師	柳橋 秀幸	博士(工学)	生体情報工学(防衛庁研究員)	電気基礎、計測工学、発変電工学、工学演習、創造実験、卒業研究
助教	オガワハヤト	B.S	電気工学(米国企業社員)	コンピュータ、創造実験、電気回路、卒業研究
助教	オグントインボボラ	B.S	電気工学(米国企業社員)	コンピュータ、創造実験、電気磁気学、卒業研究

平成22年度専門教員の専門分野と担当授業科目(機械工学科)

職名	氏名	学位	専門分野(職歴など)	担当授業科目
教授	杉森 勝	工学博士	材料システム	機械加工、先端材料工学、材料力学、機械工学実験、卒業研究
教授	秋山 晃	博士(工学)	応用力学、応用光学(防衛庁技術研究員)	振動工学、機械材料、科学技術史、機械工学実験、創造設計、創造実験、卒業研究
教授	伊藤 恒平	修士	制御工学、システム工学(防衛庁技術研究員)	情報処理、工業力学、マイコン制御、機械工学演習、創造実験、卒業研究
教授	天日三知夫	修士	トライボロジ(大学助手)	熱力学、エネルギー工学、機械製図、機械工学実験、創造設計、卒業研究
教授	古屋 栄彦	博士(工学)	制御工学(大学非常勤講師)	制御工学、コンピュータ工学、コンピュータ演習、機械設計演習、情報処理
教授	松井 洋	修士	材料力学(大学助手)	生産システム工学、機械設計、マイコン制御、創造実験、卒業研究
准教授	金井 亮	博士(工学)	計算力学、材料力学(大学非常勤講師)	ロボット工学、計測工学、機械工学実験、機械設計演習、機械工学演習、創造設計、卒業研究
講師	小間 徹也	学士	メカトロニクス(企業社員)	機械加工、マイコン制御、メカトロニクス、CAD/CAM、設計製図、卒業研究
講師	ライニアソン アナスタシア	M.S	機械工学	機械材料、創造設計、創造実験、卒業研究
講師	ラバティジェームス	B.S	設計工学(オタゴポリテク上級講師)	コンピュータ工学、マイコン制御、創造設計、創造実験、卒業研究

平成22年度専門教員の専門分野と担当授業科目(グローバル情報工学科)

職名	氏名	学位	専門分野(職歴など)	担当授業科目
教授	谷合 泰次	修士	電子材料(防衛庁及び企業社員)	情報処理、計算機システム、ソフトウェア工学、卒業研究
教授	今澤 明男	修士	経営工学・管理工学(大学講師)	科学技術史、情報処理、情報工学演習
教授	田村 景明	博士(工学)	計算機工学	科学技術史、コンピュータ演習、計算機システム、創造実験、卒業研究
准教授	ゲイロードブルース	B.S	経営(米国企業社員)	ビジネス英語、コンピュータリテラシー、上級英語、創造実験
准教授	小坂 崇之	博士(工学)	情報工学(大学助手)	コンピュータグラフィックス、情報処理、コンピュータ演習、卒業研究
准教授	坂倉 忠和	修士	情報工学(大学助手)	情報処理、計算機システム、マルチメディア、情報理論、創造実験
准教授	中沢 政幸	修士	画像処理、パターン認識(職業能力短期大学校講師)	卒業研究
准教授	元木 光雄	博士(工学)	アルゴリズム論、計算機理論(大学院大学所助教)	電気電子工学、コンピュータグラフィックス、コンピュータ演習、創造実験、卒業研究
講師	中野 真	博士(工学)	経営工学(大学研究所研究員)	アルゴリズム、情報工学演習、計算機システム、情報処理、科学技術史、創造実験卒業研究
助教	ソングーロバート	B.S	ソフトウェア工学(米国企業スペシャリスト)	上級英語、情報処理、情報工学演習、創造実験、卒業研究

- ・本校の一般教育課程の運営に必要な教員は適切に配置されていると考えています。
- ・英語教育は本校の特色として充実した体制が整備されていると考えています。
- ・穴水湾自然学苑教育は学園の支援を受けて適切に実施されていると考えています。
- ・数理教育および人文教育は一部非常勤教員（資料3 - 1 - - 3）の応援を求めています。いずれの方も高等教育機関における教育担任あるいは高等学校を定年退職されたベテラン教員であり、適切に実施されていると考えています。

（資料3 - 1 - - 3）

「非常勤講師の担当科目及び週時間数」

平成18年度

	氏名	担当科目	クラス	週時間数	所属等
一般科目	田中 まり	ドイツ語(選択)	4年	2	金沢大、富山大(非)
	崎田 和夫	線形代数	2年(2クラス)	6	本校退職者
	若崎 建一	基礎数学	1年	2	高校教諭
		基礎数学	1年	4	
	橋村 幹世	地理(選択)	4年(2クラス)	4	本校退職者
	宮西 章	創造実験	1年	2	本校退職者
応用物理		4,5年	4		
専門科目	佐藤 富士雄	オペレーティングシステム	4年	2	金沢工大(非)

平成19年度

	氏名	担当科目	クラス	週時間数	所属等
一般科目	飯野 弘	哲学	5年	1(2単位)	金沢工業大学
	金光 秀和	哲学	5年	1(2単位)	金沢工業大学
	長谷川 明弘	心理学	5年	1(2単位)	金沢工業大学
	玉作 昌之	デザイン概論	5年	2	デザイン事務所
	室木 直彦	地理	4年(2クラス)	4	高校教諭
	田中 まり	ドイツ語	4年	2	金沢大、富山大(非)
	佐藤 守	微分積分	3年	4	本校退職者
		線形代数	2年	2	
	若崎 建一	線形代数	2年(2クラス)	6	高校教諭
専門科目	佐藤 富士雄	オペレーティングシステム	4年	2	金沢工大(非)
	杉原 太郎	マルチメディア	5年	2	北陸先端大学院(学生)
	濱辺 謙二	流体力学	4年	2	金沢工大

平成20年度

	氏名	担当科目	クラス	週時間数	所属等
一般科目	金光 秀和	哲学	5年	1(2単位)	金沢工業大学
	福田 沙織	心理学	5年	1(2単位)	金沢工業大学
	玉作 昌之	デザイン概論	5年	2	デザイン事務所
	野木 邦夫	地理	4年	4	金沢工業大学
	半田 敬	文学	5年	2	本校退職者
	田中 まり	ドイツ語	4年	2	金沢大、富山大(非)
	若崎 建一	線形代数	2年	3	高校教諭
		線形代数	2年	3	
専門科目	佐藤 守	線形代数	3年(3クラス)	6	本校退職者
	下谷 俊昭	電気基礎	1年	2	本校退職者
		電気磁気学	2年	3	
		情報伝送学	5年	2	
	千田 美恵	コンピュータ演習	1年	2	情報処理技術者
		情報処理	1年	2	
	佐藤 隆一	流体力学	4年	2	金沢工業大学
	榎本 啓士	ピークル工学(前期)	5年(前期)	2	金沢大学
	稗田 登	ピークル工学(後期)	5年(後期)	2	金沢大学
	村本 紘	情報処理 a	1年	2	本校退職者
		情報処理 a	2年	2	
創造実験		3年	2		

平成21年度

	氏名	担当科目	クラス	週時間数	所属等
一般科目	伊藤 啓一	哲学	5年	1(2単位)	金沢工業大学
	渡辺 加奈	心理学	5年	1(2単位)	金沢工業大学(非)
	玉作 昌之	デザイン概論	5年	2	デザイン事務所
	野木 邦夫	地理	4年	4	金沢工業大学
	半田 敬	文学	5年	2	本校退職者
	田中 まり	ドイツ語	4年	2	金沢大、富山大(非)
	若崎 建一	線形代数	2年	3	高校教諭
		線形代数	2年	3	
専門科目	川崎 清明	微分積分	2年	3	高校教諭
		微分積分	2年	3	
	佐藤 富士雄	オペレーティングシステム	4年	2	金沢工大(非)
		計測工学	4年	2	
		電気磁気学	2年	3	
	表 義憲	(OP)電気磁気学	4年	1(2単位)	本校退職者
		電気磁気学	2年	3	
	下谷 俊昭	情報伝送工学	5年	2	本校退職者
		電気基礎	2年	2	
	石黒 泰治	電気機器	5年	2	本校退職者
		電気基礎	2年	2	
	千田 美恵	コンピュータ演習	1年	2	情報処理技術者
		情報処理	1年	2	
		情報処理 a	2年	2	
	佐藤 隆一	流体力学	4年	2	金沢工業大学
	榎本 啓士	ピークル工学(前期)	5年(前期)	2	金沢大学
	稗田 登	ピークル工学(後期)	5年(後期)	2	金沢大学
西田 敬二	創造実験	2年	2	本校退職者	
	材料加工	2年	2		
	機械材料	2年	2		
村本 紘	情報処理 a	1年	2	本校退職者	
	情報処理 a	2年	2		
	創造実験	3年	2		

平成22年度

	氏名	担当科目	クラス	週時間数	所属等
一般科目	渡辺 加奈	心理学B	5年	1(2単位)	金沢工業大学(非)
		心理学A	5年	1(2単位)	
	玉作 昌之	デザイン概論	5年	2	デザイン事務所
	野木 邦夫	地理	4年	4	金沢工業大学
	村戸 弥生	文学	5年	2	石川高専(非)
	田中 まり	ドイツ語	4年	2	金沢大、富山大(非)
	若崎 建一	線形代数	2年	3	高校教諭
	川崎 清明	微分積分	2年	3	高校教諭
専門科目	佐藤 富士雄	オペレーティングシステム	4年	2	金沢工大(非)
	表 義憲	電気磁気学	2年	3	本校退職者
	下谷 俊昭	情報伝送工学	5年	2	本校退職者
	石黒 泰治	電気機器	5年	2	本校退職者
	佐藤 隆一	流体力学	4年	2	金沢工業大学
	榎本 啓士	ピークル工学(前期)	5年(前期)	2	金沢大学
	稗田 登	ピークル工学(後期)	5年(後期)	2	金沢大学
	西田 敬二	創造設計	1年	2	本校退職者
		創造設計	2年	3	
	林 道大	エレクトロニクス	2年	2	機械メーカー勤務
		エレクトロニクス	3年	2	
		メカトロニクス	4年	2	
		メカトロニクス	5年	2	
	千田 美恵	コンピュータ	1年	2	情報処理技術者
		情報処理	1年	2	
		情報処理 a	2年	1	
	村本 紘	創造実験	3年	2	本校退職者
	藤澤 武	オペレーティングシステム	4年	2	情報企業勤務
		データベース	5年	2	
	加藤 恭子	数値計算	4年	2	金沢工業大学
		計算機システム	5年	2	

- ・本校のグローバル化対応による特色化を推進するために、平成20年度より、各専門工学科に2名の英語圏出身のネイティブ教員を配置し、CLE²プログラムの推進と連携して工学と英語の連携を推進することとしています。
- ・高専設置基準から判断しても、教員数は充足しており、教育運営上は問題がないと考えています。しかしながら、本校は現場技術者養成を目的としており、教員の専門性という観点の他に、企業出身者による、より実務的な課題や研究に対するアプローチが教育現場において必要であると感じています。特に情報技術関連及びロボティクス関連の技術現場における変革は著しく、より実務的な教員の補充が必要であると考えています。
- ・将来のものづくり教育技法の発展に鑑み、デザインシンキング、CDIO及びエンジニアリングデザイン関連の実務的な教員の補充が必要であると考えています。
- ・教務運営の円滑化を図るために、金沢工業大学大学院生を本校のTA(ティーチングアシスタント)として採用しています。また、学園の技術職員(技師)が実験や実習に協力することで、授業運営を措置しています。
- ・実験実習科目の一部において金沢工業大学の学生をSA(スチューデント・アシスタント)として採用し、補助的業務を措置しています。

〔評価〕

- ・著しい科学技術の進展の中で教員は各分野の専門家として常に新しい知識の獲得に努力する必要があります。しかしながら、学際的領域ともいえるネットワーク及びロボティクスの専門分野は特に進歩が著しく、より実務的な人材の確保を進めつつ、現有の教員の努力によって必要な運営がなされています。
- ・今後中長期的な課題として、デザインシンキング、CDIO及びエンジニアリングデザイン関連の実務的な教員の確保のために、企業出身の現場技術者等の採用や地域連携による産業界における人材の活用を視野に入れた教育の活性化を推進していくこととしています。
- ・学園の技術職員や金沢工業大学のTA、SAによって、教育運営上必要な補助者は適切に確保できていると考えています。
- ・TAやSAの採用は、本校の卒業生を優先しています。本校での教育を経験していることが業務運営の円滑化に役立っていると考えています。

〔改善点〕

産業界の人材を活用することは開始したばかりであり、今後も多用する必要があると考えています。

3・2 教員養成

〔現況〕

- ・平成17年度の第3者評価で指摘された教員の年齢構成については、バランスの良い配置を目指して、努力を続けています。ここ数年、若手教員の採用を進め、平成18年から平成22年の間に35歳以下の若手教員を主体として新規に採用してきました。(資料3-2-1「教員の採用状況(過去5年間)」)
- ・平成18年度以降、全教員が「教師学」講座を受講し、教育における学生との関係及び視点の置き方について研修しています。以後、新採用教員に対しても新任教育のほか教師学受講を義務付けて参りました。同様に、教員研修の場としてきた「教育成果発表会」に加えて、毎年2回の「金沢高専FD研修会」を開始しています。これにより教員間において教育経験伝承、教育技法の伝承・伝達及び教育に関する情報交換が以前より円滑に行われるようになりました。
- ・本校では、学位取得を目指す教員に対して、クラス担任や部活動顧問の担当を外したり、授業担当時間数を考慮するなど、教員の負担をできる限り軽減するための支援をしています。また、学位取得に伴う留学制度を設けております。
- ・教員の研究活動に関しては、科学研究費補助金への申請(資料3-2-2)を奨励すると共に創造技術教育研究所を設置(資料3-2-3)し、所員を兼務する教員には、教育研究補助金を学園研究支援機構から支弁する及び企業等研究補助金への申請・推薦を行う等、「教育を研究する」を合言葉に研究活動を推進しています。教員の行う教育研究は、専門工学の成果の他、ものづくり教育技法創造研究の結果は、SPP(サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト)推進事業にも採択されています(資料3-2-4)。
- ・本校の教育及び学務に関する活動に貢献のあった教職員に対する表彰制度として、「理事長賞」があり、本校の教職員が過去5か年の間に24名受賞しています。

(資料3 - 2 - - 1)

「教員の採用状況(過去5カ年)」

2006 (平成18年度)	瀧本 明弘 (教授)	学歴	日本体育大学体育学部体育学科卒
		職歴	金沢工業大学助教授、平成18年本校教授就任
	伊藤 恒平 (助教授)	学歴	防衛大学校航空宇宙工学教室卒、防衛大学校工学研究科(航空宇宙)修了
職歴		陸上自衛隊野整備中隊、川崎重工業会社研修員、防衛庁技術研究本部第3研究所光波誘導研究室、平成18年本校助教授就任	
ドゥーガン・ヒンチー (講師)	学歴	アーハム大学教養学部日本語卒、セントマイケルズ大学大学院修士課程(第二言語としての英語教授法)修了	
	職歴	ECC英語会話語学校講師、平成18年本校講師就任	
2007 (平成19年度)	川崎 清明 (特任講師)	学歴	金沢大学理学部数学科卒
		職歴	石川県立鹿西高等学校校長、平成19年本校特任講師就任
	土谷 梓 (講師)	学歴	金沢大学大学院文学研究科文学専攻(修士課程)修了、
		職歴	金沢市立工業高等学校本科二部、石川県立羽咋高等学校、石川医療技術専門学校非常勤講師、平成19年本校講師就任
	松本 昇久 (講師)	学歴	金沢大学理学部数学科卒、北陸先端科学技術大学院大学大学院博士前期課程(情報科学)修了、同博士後期課程中退
		職歴	平成16年、17年石川県立内灘高等学校非常勤講師、平成17年石川県立中央高等学校非常勤講師を兼務。平成18年北陸学院高等学校教諭、平成19年本校講師就任
	ジュームス・グリーン (講師)	学歴	ニューヨーク大学芸術科卒(映画およびTVプロダクション専攻) 中国珠海TEELインターナショナルTESOLサティフィケート修了
		職歴	中国山西省高校英語教育、EZコミュニケーションズ英語教育、金沢市内小中学校ALT教員、平成19年8月本校講師就任
	クアン・セホアン (講師)	学歴	サン・ギョン・グァン大学経営学科卒、米国スクールフォアインターナショナルトレーニング修士課程(教育学)修了
		職歴	韓国リーディングタウン英語教員、ベンジャミンフランクリン技能学校教員、平成19年8月本校講師就任
	松本 裕 (教授)	学歴	防衛大学校電気工学科卒、オハイオ大学大学院修士課程(電気工学)修了 防衛大学校教授
		職歴	航空自衛隊幹部学校戦略主任教官、平成19年本校教授就任
	諸谷 徹郎 (講師)	学歴	金沢工業大学電子工学科卒、金沢工業大学大学院修士課程(電気電子工学)修了
		職歴	リンテック(株)会社員、平成19年本校講師就任
	金井 亮 (講師)	学歴	金沢大学工学部人間・機械工学科卒、金沢大学大学院博士前期課程(機械科学)修了、金沢大学大学院博士後期課程(システム創成科学)単位取得
職歴		金沢大学非常勤講師、金沢大学工学部助手、平成19年本校講師就任	
谷合 泰次 (教授)	学歴	防衛大学校電気工学科卒、防衛大学校理工学研究科(電子工学)修了	
	職歴	防衛庁航空交通管制官、技術研究本部、航空実験団、航空幕僚監部、補給本部、その後伊藤忠テクノソリューションズ(株)勤務、平成19年本校教授就任	
小坂 崇之 (講師)	学歴	金沢工業大学情報工学科卒、金沢工業大学大学院博士前期課程(情報工学)修了 金沢工業大学大学院博士後期課程(情報工学)単位取得	
	職歴	金沢工業大学助手、平成19年本校講師就任	

2008 (平成20年度)	ジェームス・ラバティー (講師)	学歴	オタゴ大学工学部設計科卒、オタゴ大学大学院設計科ディプロマ修了
		職歴	ワラダニーデン工学、マクレーインバーカギル、オタゴポリテクニク工学部 上級講師、平成20年本校講師就任
	中野 真 (講師)	学歴	國學院大學文学部文学卒、金沢大学大学院博士課程(情報科学)修了、
		職歴	金沢工業大学情報マネジメント研究所研究員、平成20年本校講師就任
	ダミーコ・ルーカス (講師)	学歴	バーモント大学文学部フランス語学科卒、セントマイケルズ大学大学院修士課程(第二言語としての英語教授法)修了
		職歴	バーモント州難民定住プログラム英語教員、平成20年10月本校講師就任
	オガワハヤト (助教)	学歴	ロチェスター工科大学工学部電気工学技術卒
職歴		EMAオートメーテッドデザイン社勤務、平成20年10月助教就任	
小間 徹也 (講師)	学歴	金沢工業大学機械工学科卒	
	職歴	パナソニックエレクトロニクス株式会社(株)勤務、平成20年本校講師就任	
ライニアソン・アナスタシア (講師)	学歴	ロチェスター工科大学工学部卒、ロチェスター工科大学大学院修士課程修了	
	職歴	平成20年10月本校講師就任	
元木 光雄 (准教授)	学歴	東京工業大学工学部電気・電子工学科卒、東京工業大学大学院情報理工学研究 科博士課程(数理・計算機科学)修了	
	職歴	東京女子医科大学博士研究員、北陸先端科学技術大学院助教、 平成20年本校准教授就任	
2009 (平成21年)	スティーブソン・イアン (講師)	学歴	ニューハンプシャー大学人文学部卒、デンバー大学大学院修士課程(国際政治学) 修了、セントマイケルズ大学大学院修士課程(第二言語としての英語教授法)修了 マギール大学ビジネススクール日本校(MBA)修了
		職歴	韓国サムスン外国語学校英語講師、玉川学園グローバル教育センター英語講師 平成21年本校講師就任
	山口 真史 (助教)	学歴	日本体育大学学部体育学科卒
		職歴	熊本県立第二高等学校非常勤講師、平成21年本校助教就任
	藤島 悟志 (准教授)	学歴	豊橋技術科学大学知識情報工学課程卒、豊橋技術科学大学大学院博士後期課程 (機能材料工学)修了
		職歴	関西学院大学博士研究員、豊橋技術科学大学助教、平成21年本校准教授就任
	柳橋 秀幸 (講師)	学歴	金沢工業大学電気工学科卒、金沢工業大学大学院博士前期課程(電気電子工学) 修了、金沢工業大学大学院博士後期課程(電気電子工学)修了
職歴		防衛庁技術研究本部、平成21年本校講師就任	
オグントインボ・ボラジ (助教)	学歴	ロチェスター工科大学工学部電気工学技術卒、	
	職歴	Qioptiq(キーオプティク)社勤務、平成21年本校助教就任	
ソングー・ロバート (助教)	学歴	ロチェスター工科大学工学部ソフトウェア工学科卒、	
	職歴	ラングージ・インテリジェンス社技術スペシャリスト、平成21年本校助教就任	
2010 (平成22年)	谷口 航 (助教)	学歴	東海大学工学部土木工学科卒
		職歴	石川県立羽咋工業高等学校、石川県立工業高等学校離任講師、平成22年本校助教就任

(資料3-2-2)

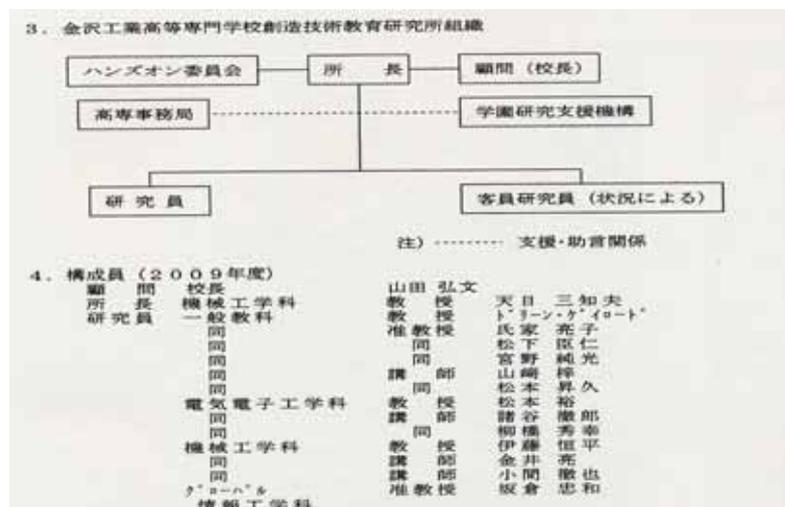
「科学研究費補助金申請件数・採択件数」

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
申請件数	10	7	6	6	14	12
採択件数	2	3	1	2	2	1
採択金額(千円)	5200	6600	1900	2600	4600	1500
継続件数	2	3	5	4	3	4
継続金額(千円)	1900	3700	7000	3900	3200	3900

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
申請件数(A)	10	7	6	6	14	12
採択件数(B)	2	3	1	2	2	1
採択率(%) B/A*100	20%	43%	17%	33%	14%	8%
採択額(千円)	5,200	6,600	1,900	2,600	4,600	1,500

(資料3-2-3)

「平成21年度創造技術教育研究所の構成」



(出典：創造技術教育(2009年)P.118)

資料3 - 2 - - 4

(1) SPP事業採択件数(TSTの理数学習支援、講座型学習活動)

平成年度	件数	内容	対象学校	実施回数
19	4	・「Hand s on で数学を」	野々市町立野々市中学校3年生	2回
		・「Hand s on で数学を」	小松市立南部中学校3年生	2回
		・「ロボットを触って遊んでみよう」	野々市町立野々市小学校5年生	1回
		・「ライン追従型ロボットの設計と製作」	金沢市立大徳中学校、北鳴中学校科学部	2回
20	3	・「レッツチャレンジロボット設計」	金沢市立高尾台中学校情報科学部	4回
		・「簡単機構学でロボコンにチャレンジ」	金沢市、白山市、野々市町中学校の公募	3回
		・「Hand s on で数学を」	金沢市立北鳴中学校3年生	3回
		・「レッツチャレンジロボット設計」	小松市立南部中学校3年生	3回
21	3	・「はぐるま3分タイマーをつくろう」	金沢市立高尾台中学校情報科学部	3回
		・「はぐるま3分タイマーをつくろう」	金沢市立額中学校技術部	3回
		・「模型スターリングエンジンの製作を通してエネルギーや環境問題を学ぶ」	金沢市立浅野川中学校情報科学部	3回
		・「Hand s on で数学を」	白山市立北辰中学校1,2年生	4回
22	2	・「君もガリレオ」	小松市立南部中学校3年生	3回
		・「模型スターリングエンジンの製作を通してエネルギーや環境問題を学ぶ」	野々市町立布水中学校3年生	3回
			白山市立北辰中学校1~3年生	3回

(2) SPP事業で講師派遣を行った件数

平成年度	件数	内容	対象学校	実施回数
20	1	・「ロボットと遊ぼう」	中能登町立御祖小学校 中能登町立滝尾小学校 中能登町立越路小学校	3回
22	1	・「Hand s on で数学を」	小松市立南部中学校3年生	3回

(3) STT事業の採択件数(理数系教員指導力向上研修(希望者))

平成年度	件数	内容	対象学校	実施回数
20	1	「模型部品を用いたロボコン機構学と、その応用としてのロボコン実施についての一例」	金沢市、白山市、野々市町の中学校 技術家庭教諭	1回

【評価】

- ・年齢構成の一部不均衡については、小規模校においては一気にその是正は困難であります。熟達した教員の授業には大きな魅力を感じます。一方、若手教員によるはつらつとした授業にも魅力があります。また最新技術の導入に対する可能性も考慮しなければなりません。本校としては、こうした点を考慮しながら個人の能力を尊重し、時間をかけて是正を図ってまいります。
- ・一部若手教員の年齢不均衡には、新しいものづくり教育技法の導入と定着化や、本校が文部科学省の推進事業として努力しているCLE²プログラムをはじめとした、新しいものづくり教育手法の確立とその推進に必要なネイティブ教員の影響があります。このプログラム自体が本校の独自性にもつながると認識していることから、当面の処置としてやむを得ないものと考えています。

【改善点】

- ・学位取得への取り組み支援については、教員の希望があっても校務の都合によって、なかなか希望を満たすことが出来ません。時間はかかりますが、これまでの取り組みを地道に積み上げてまいります。
- ・研究においては、教員の努力の中で一応の成果が得られていると考えています。一方で、科学研究費補助金の採択件数が低く努力が必要であると認識しています。

3.3 教員評価

〔現況〕

- ・本校の教育については、KTC教育評価委員会が平成15年度からKTC総合アンケート及びKTC授業アンケートを実施しています。(資料3-3-1「KTC総合アンケート調査結果」)(資料3-3-2「KTC授業アンケート調査結果」)平成20年度からはアンケートの有意性を検証するため、第三者による回答者へのヒアリングを実施しています。
今後とも計測的なヒアリングを実施し、アンケートには有意性を検証する積りです。
- ・全教員が、校務全般の活動について、年度末に教育改善への取組と今年度の目標及びその成果(資料3-3-3)を提出し、校長が評価しています。
- ・校長は、教員から提出された報告書やKTC授業アンケートの結果を踏まえて、文書回答あるいは各教員と面談を行い、要改善点を指摘することで次年度の計画立案と実施を教員に求めています。
- ・各教員は、教育の実践目標を念頭に置いた自己点検評価を行うために、年度末には翌年度に備え「教育改善への取組と今年度の目標」を作成し、前年度の実績とその評価・反省の上にとって次年度の目標を明確にし、授業改善に取り組んでいます。
- ・各教員から提出された「教育改善への取組と今年度の目標」、「KTC総合アンケート調査結果」、「KTC授業アンケート調査結果」は、教育活動へのフィードバックをするために各教員にその概要を周知し、並び年度の第1回FD研修において明らかにし、教育改善検討の資としています。
- ・校長は、随時教育視察等を実施することを通じ、教育技法や基盤等に関わる資料を収集して、改善を要する事項を認めた場合には、学務会議に諮って必要な見直しを行っています。

〔評価〕

- ・校長への報告書の提出と面談及び教育視察を通じて、本校教員の評価が行われていると考えています。また、KTC教育評価委員会が実施するKTC授業アンケートは、各教員の教育方法の改善等に活かされ、教育の向上に繋がるものと考えており、校長を中心とする適切な評価体制が整備されていると考えています。

〔改善点〕

教育評価用のアンケートの有意性について、更なる検討を続けたいと考えています。

(資料3 - 3 - - 1)

「KTC総合アンケート調査結果」

平成21年度KTC総合アンケート調査結果について

KTC総合アンケートは開始から7年目となり、本校のFD活動の要の1つとしてその重要性を増している。アンケート活動に関する学生の対応も年毎に向上しており、好ましい限りである。真摯な回答が得られるにつれ、対応する学校側の責任が増してきていることを深く認識している。評価のみ求めて改善は後回しと言うやり方は、この種活動の最も忌みすべき行動である。KTC教育評価委員会は、本アンケート結果と各種評価結果を総合的に分析し、本校の進むべき方向を模索し必要な具体的施策を提言することとなる。

本年度のアンケート結果には、企業並びに卒業生からのご意見は含まれない。このことは、急速に変化するグローバル化社会に対応し、地域密着型の高専として方向を打ち出している本校の今後の課題となる。

高専は、人間形成の場として、社会からは即戦力養成の場として、学生からは知識吸収や日々の楽しみの場として、並びに、教職員にはなりわいと個人の幸せ追及の場として存在している。いずれかの要素を偏重することは、学生教育上問題を発生させることになる。しかし、私学が公立学校と異なる点は、この学校がある「理念」の下に存在し、それを追及する人間の組織として存在し、それを求める学生が集まっていると考えることができることである。

前年同様、今年も学生の本校に対する印象度が向上したことは嬉しいことである。その反面、学生募集は低迷しており、教職員は多忙感や業務集中を訴えている。限りある各種資源を活用して改善を進める必要がある。

アンケートの総合判定結果や多くの意見は、上記観点に立って評価されるべきであり、各種の提言は明日への改善策として活用されることとなる。本校は、学校・教職員、保護者、学生の三位一体となった教育改善活動を行ってきた。改善活動の第2期に入っている今時、この結果を今後の学校改革に活用して行きたい。

今結果の総括と分析にご協力賜ったアイポイント、並びにCS室の方々に感謝申し上げます

平成22年4月

金沢工業高等専門学校
校長 山田 弘文

INDEX

<1> 本調査の全体像	1
<2> 基本的な指標	7
<3> 各分野の分析	19
<4> 人材像に関して	59
<5> 卒業生調査	65
<6> 企業調査	71
<7> 教職員調査	79
<8> 調査結果全体のまとめ	89
<9> 学生の自由記述の整理	95
<10> 調査票見本	111

<1-1> 全体概略

■調査の目的

本調査は下記の目的に従って実施した。

- 本調査は金沢高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを主目的とする。
- この調査企画では、在学生と教職員に金沢高専の評価を聞き、各々の意識の違いを見いだすことで、今後の学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的とする。(今回は卒業生、企業担当者への調査は実施していない。)
- 本調査は平成15年度から続いており、今回で7回目となるが、前回は内容を大きく見直している。
- 平成17年度の調査までは年度末(2月初旬)に実施し、平成18年度と平成19年度は9月中旬の実施に変更したが、H20年度からは年度末の実施に戻している。

■調査の概略

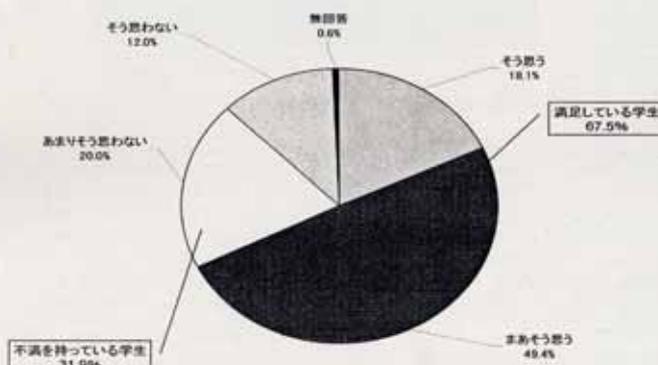
項目	内容
調査概略	調査票による自記入式調査とし、全て無記名式とした。
総回答数	529サンプル
1年生～5年生	・有効回答数 1年生:81サンプル、2年生:104サンプル、3年生:92サンプル、4年生:103サンプル、5年生:96サンプル ・各クラスで配布し、回収した。(配布:2月12日、回収:2月12日)
卒業生	・今回は実施せず。 ・5年に1回実施する予定で、次回の実施は平成25年度の予定。
教職員	・有効回答数 53サンプル ・各教職員に配布し、回収した。(配布:2月12日、回収:3月13日)
企業担当者	・今回は実施せず。 ・5年に1回実施する予定で、次回の実施は平成25年度の予定。
調査主体	学校法人 金沢工業大学
集計	有限会社 アイポイント

<2-1> 金沢高専の総合的な満足度

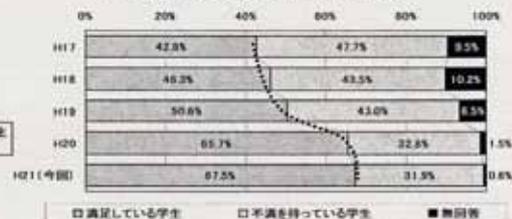
■本年度の総合的な満足度

- 「総合的に見て金沢高専に満足していますか？」では、「そう思う」が18.1%、「まあそう思う」が49.4%であり、合わせると67.5%が満足していると答えており、不満を持っている学生は31.9%にとどまっていた。
- H19までは選択肢に「わからない」があり、それも「不明・無回答」に加えて集計していた。H20からは「わからない」という選択肢をなくしているため純粋な比較はできないが、H20に「満足している学生」が急増しており、今回のH21では前年より1.8ポイント増加していた。
- 「満足している」という学生はH17からH19にかけても増加しており、選択肢が変わってからも増加が続いている。調査の実施時期の変更や聞き方の変更はあるものの、満足度は継続的に上がっていると見て良いと思われる。

■総合的に見て金沢高専に満足していますか？(在校生のみ)



■金沢高専の総合満足度 年度別比較



■金沢高専の総合満足度 年度別内訳

年度	満足している学生の合計	不満を持っている学生の合計
H17	42.8%	< 47.7%
H18	46.2%	> 43.5%
H19	50.6%	> 43.0%
H20	65.7%	> 32.6%
H21(今回)	67.5%	> 31.9%

(出展:「平成21年度KTC総合アンケート調査結果報告書」)

(資料3 - 3 - - 2)

「KTC授業アンケート調査結果」

平成21年度KTC授業アンケート調査結果について

KTC 授業アンケートは、今回で9回、通算7年目の結果を報告することとなった。本年度を通年の調査としたのは、年間の2回の実施は好ましいものの、費用効果および調査時間の面でやや支障があったためである。また、設問にも改善が加えられている。

アンケート調査結果のうち、教員個人の担当教科にかかわるアンケート調査結果については、自由記述も含め当該教員に個々に配布している。本報告書では、授業に関する調査結果の総括を示している。この総括結果、特に経年変化に関する分析結果からわかることは、具体的な改善要求に対し大部分の教員が迅速に対応して授業改善を図った結果、学生の授業に対する興味や取り組みが好ましい傾向に向かっていることである。これが学生の満足度にも連携している。この事実は、本校教職員の誇りとと言える。各位のご労苦に対し、感謝申し上げます。

アンケート調査の功罪については、従来も議論されている。しかし、長期的見地に立てば、多数年のアンケート調査にかかわる学生が増える(評価の母数が増える)ことで、評価結果の精度も向上すると考えられる。また、経年変化を詳細に見ることで、教育の継続的効果を知ることができる。この意味では、アンケート調査結果については真摯に捕える必要がある。一般に教養科目に対する学生の評価は高く、専門工学分野で難度の高い科目を担当する教員に対する学生の評価は、低くなりがちであるという意見には妥当性も見られる。しかし、科目の難易度が評価結果に直結すると断言するのは、必ずしも正論を得ない。なぜなら、本総括には含まれていない科目担当者ごとの評価結果を詳細に見ると、難易度の高い教科でも担当教員が変わった結果、理解度が向上し担当教員に対する評価も上がる例が見られるからである。そのような場合には、新担当教員の教育手法が「そう思う」側にあることが分かる。また、自宅における勉強が進むにつれ課題を課さない科目が明らかになり、これが勉強の伸びと関連しているように推測できるところもある。したがって、授業に対する学生の満足度は、教員の教育技法に関する努力目標を学生が示唆しているとも言える。また、ある意味では、この結果が科目教育の写像であると言える。

現今のわが国においては、私学は顧客満足度を配慮しなければならない教育機関となっている。したがって、各教員あるいは教育チームが節度を持って顧客満足度の向上を図る方策を講じることが必要であることは、言を待たない。なぜなら、学生は教師を選択できないので、教師側がいかにしてレベルを維持したまま学生が満足する授業を実施するかが、学校の死活問題に繋がっているからである。改善の始まりは気付きである。特に必要な場合には、面談の上改善を図ることにしている。

本校の全教職員が、アンケート調査結果の裏面にある事実や現象に気付き、より充実し満足度の高い授業の実現に努めることが肝要である。今後とも、本校では授業アンケートを実施し、教育改善に役立てたい。

本アンケートの取りまとめに携わったCS室及びKTC教育評価委員会を始め、多くの方々のご尽力に感謝申し上げます。

平成22年4月

金沢工業高等専門学校
校長 山田 弘文

— 目 次 —

< 1 >	全体概略	1
< 2 >	基本的な集計	3
< 3 >	部会別の比較	9
< 4 >	学年別の比較	15
< 5 >	創造実験に関して	21
< 6 >	部会別、評価の高かった科目比較	25
< 7 >	達成度に関して	32
< 8 >	調査のまとめ	38
< 9 >	調査票見本	41

<1> 全体概略

1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は、1年間に受けた授業に対する評価と満足度を金沢高専の学生から聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、金沢高専全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 調査終了直後に作成した「速報版」は、各科目の担当教員が個別に1年間の授業の評価を振り返るためのものであり、本報告書は全体の傾向を分析し、全体的な改善の方向性を検討するためのものである。

2) 調査の概略

H21年度の調査の概略は下記の通り。

項目	内容		
		H21年度のべ回答数	H21年度在校生数
分析データ件数 対象者	1年生	1,015件	82名
	2年生	1,445件	109名
	3年生	1,303件	93名
	4年生	1,850件	110名
	5年生	1,462件	103名
	全体合計	7,075件	497名
対象科目	238科目		
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業の最終日に20分程度の記入時間をとって行った。 ・調査票は学生が回収し、教員ではなく事務局に届けるものとした。 ・回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。 		
調査主体	学校法人 金沢工業大学		
集計	有限会社 アイ・ポイント		

<8> 調査のまとめ

1) 全体傾向、部会別比較、学年別比較

	分野ごとの意見	まとめ
全体傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 全体の76.1%は興味を持って授業を受けており、前回は3ポイント上回り、これまでで最高であった。 □ 「勉強しなかった」は23.1%で過去最低であり、家庭での学習時間は増加する傾向にあった。 □ 授業に積極的に取り組んでいる学生は69.9%であり、今までの調査の中で最も多かった。 □ 授業に満足であったという回答は75.3%で、前回は1.6ポイント上回り、過去最高であった。 □ 授業の評価として高い項目は、「教科書、教材、資料など」「好きな科目である」「授業の進め方が適切」などであった。 □ 授業の評価の経年変化ではほとんどがこれまでで最高で、「課題やレポートなど」「進め方」「話し方や説明」の向上が大きかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「興味」「積極性」「満足度」の3指標共に前年を上回り、これまでで最も高くなった。H19頃から継続的に向上してきており、良い状態になっていると言える。 ● 「勉強しなかった」の割合はこれまでで最も少なくなっており、授業の内容評価も最も良い状態であった。 ● 授業に関しては以前より高評価であるが、「風俗やビデオ、OIRなど」授業中の話し方や説明「学生が理解しやすいような工夫」といった面の評価が低く、課題と言える。
部会別傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 授業に関する「興味」「積極性」「満足度」は、「一般」と「C-G」の部会の評価が高かった。 □ 「語学」「数理」「D-T」「M」の授業は「興味」「積極性」がやや低く、「数理」と「M」の授業は「満足度」も低かった。 □ 「数理」は宿題、予習、復習時間を最も多くとっており、最もとっていない部会は「語学」であった。 □ 全体的に「興味」「積極性」「満足度」は向上しているが、「語学」「数理」は前年を下回っていた。 □ 「一般」「C-G」は授業評価が高く、「数理」「M」は低めであり、満足度と運動している様子が見えなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「一般」と「C-G」が3指標共に高く、良い状態であると言える。「一般」は以前より良い状態であるが、「C-G」はここ3年間で一気に評価が上がっている。 ● 「語学」「数理」の2部会だけが前年を下回っていた。「数理」は「勉強時間」は最も多いが、前回からの満足度の低下が大きく、最も満足度が低い部会となった。 ● 専門系部会はいずれも年々良い状態になっているが、「M」の上昇度は鈍く、専門系の中では最も低い評価となっており、「D-T」にも大きく離されていた。
学年別傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 「興味」「積極性」「満足度」とも「1年生」が最も高く、「2年生」「5年生」と続いていた。 □ 3指標ともに「3年生」が最も低く、「4年生」「5年生」と学年が上がるにつれ「興味」「積極性」「満足度」は高くなっていった。 □ 「宿題、予習、復習時間」を最もとっているのは「1年生」であったが、「2年生」で一気に減少し、「5年生」になるまで差はあまりなかった。 □ 前年の同学年と比べると3指標共に「3年生」「4年生」が低下し、「1年生」と「5年生」は大幅にアップしていた。 □ 「好きな科目である」では「1年生」の高さと「3年生」の低さが目立っており、これが「興味」や「満足度」の低さに繋がっていると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 例年と同様に「1年生」は3指標共に最も高く、入学直後には良い状態にあることが分かった。そして、「勉強時間」からも分かるように、「2年生」で一気に意識が変わっていると言える。 ● 「5年生」は「2年生」に次ぐ高さであった。前回の調査では「4年生」の高さが目立っていたが、その学年がそのまま「5年生」となり、良い状態を保っていると言える。 ● 「1年生」から「2年生」にかけての低下は常に見られるが、激減であった「3年生」で大きく落ち込む「4年生」が上がるほど低下するといった変化は常に発生するのではなく、学生群によって異なるようであった。

(出展 : 「平成21年度KTC授業アンケート調査結果報告書」)

教育改善への取組と今年度の目標およびその成果 (平成21年度)

所 属	職員番号	職 名	氏 名	作成年月日
機械工学科	95016	准教授	古屋 栄彦	平成22年3月31日

1. 担当科目と担当クラスについて

番号	科目名 (コマ数)	クラス(受講人数)	学期	特記事項
1	情報処理 I (2)	M1 (34)	前・後	
2	コンピュータ演習 (2)	M2 (43)	前・後	
3	創造実験 II (2)	M2 (43)	前・後	
4	制御工学 (2)	M4 (47)	前・後	
5	機械設計演習 (2)	M4 (47)	前・後	
6	コンピュータ工学 (2)	M5 (43)	前・後	
7	卒業研究 (6)	M5 (12)	前・後	
8	特別活動 (1)	M4 (47)	前・後	
9	インターンシップ (2)、修学技法 (1)	M4 (47)		集中講義

2. 現在の校務分担を記入してください (各委員会の委員、クラス担任・副担、クラブ顧問など)。

番号	校務名	いつから	番号	校務名	いつから
1	ロボコン (プロジェクト長)	H14.4.1	9	クラス担任 (M4)	H20.4.1
2	ハンズオン部顧問	H14.4.1	10	キャリアデザイン教育部会	H20.4.1
3	49号館 (創造設計棟) 管理	H14.4.1	11	ものづくり技術者育成支援事業	H19.10.1
4	教務委員会	H20.4.1	12	連携教育部会	H20.4.1
5	教務係	H18.4.1	13	進路指導委員会	H21.4.1
6	学生募集委員	H18.4.1	14	インターンシップ部会	H21.4.1
7	グラウンドデザインプロジェクト	H19.3.1	15	金沢高専安全委員会	H21.4.1
8	4年学年主任	H21.4.1	16		

3. 学外活動について (名称と内容)

①地域活動：クレインウォータークラブ役員、 ②同窓会活動：こぶし会理事 (金沢工科大学同窓会)、こぶし会会報委員会副委員長、大学同窓会副会長、機副会 (学科同窓会) 副会長、

③研究活動：計測自動制御学会 (会員)、システム制御情報学会 (会員)

4. 「わかりやすい授業」の実施に創意工夫している教育方法 (教案の作り方、実験するなど授業の展開の仕方、教育機器の使い方、ノートの取らせ方、予習・復習への動機付け、小テストの実施など) について具体的に記入してください。

学習支援シートを用いて、授業目標や課題宿題の内容把握ができる「見える化シート」を作成し利用している。
また、自己達成度や宿題の実施計画も記入させ、家庭学習の現状把握に努めている。
創造実験科目で使える知識や技術となることを考え実施している。

5. 授業改善を図るために、今年度の重点目標とその達成のための取組を具体的に記入してください。

各回の授業目標や課題宿題内容、学生の自己達成度の状況を確認する「見える化対策」としての「学習支援シート」の検討および実施を行う。特にこれらの結果を迅速にフィードバックすることを、今年度の重点項目としたい。

注) この報告書は、各自の1年間の計画書として4月に作成して校長に提出し、校長のコメントを得た後、各自が保管します。年度末の3月に項目12(今年度の教育改善成果に関する自己点検評価)を加筆して校長に提出します。なお、校長との面談にも使用します。

6. 学生の自学自習の習慣付けや学習意欲の向上を図るために実施されている取組を記入してください。

学園内で行われている種々の企画（夢考房講習会や競技会など）を都度紹介している。
工学に関係するニュースや身近な機械製品についての話題にふれる。
話しやすい、質問に行きやすい関係作りと環境作りを心掛ける。

7. 「心豊かな、創造性にあふれたエンジニアを育成する」ために、授業や課外活動、学生指導等において注力されている点について記入してください。

授 業：専門基礎科目を道具として使うための技術の習得
課外活動：チームワークの向上
学生指導：マナーの向上

8. 前年度の授業アンケートや総合アンケートに基づいて、今年度、特に留意される事項を記入してください。

アンケート評価が他科目よりも低く、学生へのフォローが不十分な科目もあった。
機械科教員や担任などとの連携により授業改善を図りたい。

9. 授業を進める上でライブラリーセンター、夢考房などの施設利用に関してご意見を聞かせてください。

ライブラリーセンター：卒業研究の調査課題やレポート作成時に利用するよう指導している。
夢考房：卒業研究などで行うメカトロニクス装置の製作に必須の施設であり大変役立っている。

10. 自由意見（ご提案やご要望など）

11. 校長コメント

授業、ロボコン、SPPなどの努力に敬意を表します。良い伝統のみを継承し、新しい教育を創成する気鋭の教員を目指すことを期待している。

12. 今年度の教育改善成果に関する自己点検評価

学習支援シートを用いて、自己達成度や宿題の実施計画・家庭学習の現状把握をおこなった。その結果、昨年度よりも学生の状況把握ができ、学生の家庭学習の実施に繋げることができた。予習復習アンケート結果においても、全クラス40%以上の学生が予習復習を試験前以外にも実施しており、他科目との比較でも実施割合が1.4倍（実施科目/学年全体）と学生の課外の努力が見られた。一方、授業に対する積極性や満足度は他科目と比べて有意差は見られなかった。しかし、授業毎の小目標や評価方法は妥当であると考え、各目標の達成度評価記録を年間を通じて学生自身が確認できなかったことも一因として考えられる。学習支援シートの活用方法も含めた検討を行い、授業に対する積極性や満足度（達成感）の向上も図れるようにしたい。
また、全クラスで機械の新技術や機械製品の作り方を通じて多様な運動機構の紹介を行った。具体的で幅広い機械工学分野を知る機会となっていると考えるので、継続して実施したい。

金沢工業高等専門学校

（出典 「平成21年度 教育改善への取組と今年度の目標」P.82）

「教育改善への取組と今年度の目標」

4. 「わかりやすい授業」の実施に創意工夫している教育方法（教案の作り方、実験するなど授業の展開の仕方、教育機器の使い方、ノートの取らせ方、予習・復習への動機付け、小テストの実施など）について具体的に記入してください。

①授業内容への関心の喚起（「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅲ」）：コンピュータの歴史や教員の学生時代のコンピュータ学習のエピソードなどを講義に挿入し、学生の関心を喚起する。／②練習による基礎力の充実（「情報処理Ⅰ」）：毎授業時に講義内容を理解するための演習を実施しているが、さらに同じ内容の宿題を配布し翌週提出させる。これにより学習内容の定着を図るとともに、結果から学生の理解度を把握する。／③レジュメの配布と授業内容の明確化（全担当科目）：毎回の授業内容をA3版1ページ（場合によって2ページ）のレジュメにまとめて学生に配布し、これにより要点を明確にする。／④図解（全担当科目）：抽象的になりやすい内容を図解し、学生の理解を促進する。

5. 授業改善を図るために、今年度の重点目標とその達成のための取組を具体的に記入してください。

本年度は新規担当科目が2科目5コマ（「情報処理Ⅲ：C3対象」「電気磁気学Ⅰb：E4の昨年度NZ留学者対象」）あり、これを充実したものにすることが本年度の最重要課題である。具体的には、①エピソード挿入による授業内容への関心の喚起／②レジュメの作成と授業内容の明確化／③抽象的になりやすい内容の図解化等による学生の理解の促進／④演習ならびに課題の充実による基礎力の育成があげられる。また「電気磁気学Ⅰ(b)」では、対象が留学経験者であることから、英文教材により学生の興味を喚起するとともに、技術英語に関する力も育成する。

6. 学生の自学自習の習慣付けや学習意欲の向上を図るために実施されている取組を記入してください。

①原則として毎週の授業の最初に「予習テスト」を行う。予習すべき内容と重要点は前の週の授業の最後に伝える（「ソフトウェア工学」）。／②資格試験の受験を奨励し、講座を開講している（低学年における「情報技術検定試験」、上級学年における「基本情報処理技術者」試験）。／③主要な資格試験の実際の問題を授業で取り上げ、学生に資格取得へ向けての自信と関心をもたせる。

7. 「心豊かな、創造性にあふれたエンジニアを育成する」ために、授業や課外活動、学生指導等において注力されている点について記入してください。

①情報技術に秀でた学生は、往々にして技術的興味だけに因われ、自らの社会性を伸ばす努力を怠る傾向がある。そこで、エンジニアが作り上げるものは「作品」ではなく「製品」であり、エンジニアは顧客あるいは社会の代理人としてその技術を活かす立場にあることを理解させ、社会性の大切さを納得させるよう努力している。／②ソフトウェア開発の分野で重要視されている「構造化」の考えは、幅広い分野の創造活動に適用可能であると考え、この考えを学生に浸透させるよう努力している。

8. 前年度の授業アンケートや総合アンケートに基づいて、今年度、特に留意される事項を記入してください。

- (1) 5年次科目「システム工学」「ソフトウェア工学」において、授業満足度を一昨年レベルに引き戻すため、学生が消化不良にならないよう講義・演習をコントロールする。
- (2) 清掃活動などを通じて担当クラスならびに学科の学生との接触をより多くする。

9. 授業を進める上でライブラリーセンター、参考房などの施設利用に関してご意見を聞かせてください。

夏休みの宿題として専門科目に関するサイドリーディングを計画中。

10. 自由意見（ご提案やご要望など）

①現在、各教室にOHPが配備されているが、ノート型パソコンの普及に鑑み、各教室分（15台）程度の小型プロジェクターを教員室に配備してはどうか。／②忙しい中で多数の科目の授業準備、演習・宿題の採点等をしなければならない立場としては、突然の会議は致命的であり、本校では当日突然会議が開催されるということが多すぎる。会議は原則1週間前に通知し、止むを得ない場合も3日前までに通知するとの申し合わせを行ってはどうか。さらに3日以内に会議を開催する場合は理由・原因を明示し、議事録に記録すれば、校務の運営改善・効率化へつながるのではないかと。

11. 校長コメント

平成16年度の授業アンケートでは満足度が高い（約90%）。これは普段からの授業改善への努力の賜であり評価したい。学科で取り組む資格教育については、基本情報技術者試験4名（目標5名）などよい結果を得た。平成17年度は、予習テストなどユニークな授業を継続し、また授業アンケートに基づく改善への取り組みが奏功することを期待している。プロジェクターの配備当についてのご提案については早速検討したい。会議の案内は、特別の場合を除いて1週間前までに通知することとしたい。

金沢工業高等専門学校

（出典 「平成22年度 教育改善への取組と今年度の目標」P.83）

3.4 教員人事

〔現況〕

- ・教員の採用基準については、高等専門学校設置基準に基づく定めがありますが、さらに面接等を通じて教育に熱意を持ち、本校の理念、信条、ビジョン、教育目標に理解と協力を約束する人材の確保に努めています。平成18年度からは金沢工業大学の若年新規採用教員の採用方法を準用し、経験が浅い若年教員については当面3年間の任期制採用とし、この期間における勤務実績を審査し、その結果を参考にして本採用とすることとしています。また、昇格基準についても、教育研究業績を基礎とする定めが作られていますが、当人の勤務状況、教育に対する熱意、学生指導の能力を考慮して一律の適用は行っていません。採用及び昇格については、いずれも校長が原案を作成し学園人事委員会及び理事会の議を経て決定されます。
- ・平成19年度から、金沢工業大学との間で人事交流を開始しました。大学と高専では教員の採用基準が異なることから、大学への異動に際しては教員の資格審査がかかわるため、難しい問題も生じますが、勤務意欲の活性化のために必要な施策と考えています。

〔評価〕

- ・本校では教員の任用基準（資料3-4-1）及び教員の昇任基準（資料3-4-2）を定めています。
- ・その上で、校長が教員に求めている最も重要な評価基準は「教育に対する高い情熱の維持」にあり、「教員の服務」（資料3-4-3）が定められています。
- ・校長は、教員との面談、教育視察、「教育への取り組み」、「アンケート結果」および任期制教員勤務評価報告等を通じて、教員の評価を適切に行っていると認識しています。
- ・教員の人事は校長の専決事項としての合意が形成されており、校長が作成する教員人事の原案は、学園人事委員会及び理事会において、これまで否決された例はありません。

〔改善点〕

任期制教員の採否の決定と同様に、長期勤務教員の評価制度を検討する必要を感じています。

(資料3 - 4 - - 1)

「金沢工業高等専門学校教員任用基準」

○金沢工業高等専門学校教員任用基準

(昭和61年4月1日施行)

改正 平成14年4月1日 平成19年4月1日
平成20年4月1日

第1条 金沢工業高等専門学校(以下「本校」という。)の教員の任用については、高等専門学校設置基準(昭和36年8月30日文部省令第23号。以下「設置基準」という。)によるほか、この基準の定めるところによる。

第2条 本校の教員となる者は、学校法人金沢工業大学建学綱領(昭和40年2月)に定める建学の精神を理解するとともに、その継承、実践に努めなければならない。

第3条 本校の教員となる者は、社会の規範たる高潔な人格と豊かな識見を併せ持つとともに、本校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有していなければならない。

第4条 本校の教授となることができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 博士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有する者
- (2) 学位規則(昭和28年文部省令第9号)第5条の2に規定する専門職学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者
- (3) 大学(短期大学を含む。以下同じ。)又は高等専門学校において教授の経歴(外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。)のある者
- (4) 大学又は高等専門学校において、准教授又は専任講師の経歴(外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。)があり、その在職年数が3年を経過した者
- (5) 学校、研究所、試験所、調査所等に在職し教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し技術に関する業務についての実績を有する者(以下「研究所等の在職経験者等」という。)、又は特定の分野について特に優れた知識及び経験を有する者であって、次の要件のいずれかを満たす者
 - イ 査読ある論文又は報告等が3編以上あり、そのうち1編が過去5年以内に公刊したものであること。
 - ロ 発明、特許、発見又は設計、考案等について、2以上の優れた実績を有すること。
 - ハ 教育、研究、技術、学事運営等について博士の学位を有する者と同等以上の知識、能力又は8年以上の経験年数を有すること。
- (6) 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

第5条 本校の准教授となることができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 前条により本校の教授となることができる者
- (2) 大学又は高等専門学校において、助教又はこれに準ずる職員としての経歴(外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。)があり、その在職年数が3年を経過した者

(3) 修士の学位又は学位規則第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者

(4) 研究所等の在職経験者等、又は特定の分野について優れた知識及び経験を有する者であって、次の要件のいずれかを満たす者

イ 査読ある論文又は報告等が2編以上あり、そのうち1編が過去5年以内に公刊したものであること。

ロ 発明、特許、発見又は設計、考案等について、優れた実績を有すること。

ハ 教育、研究、技術、学事運営等について、修士の学位を有する者と同等以上の知識、能力又は5年以上の経験年数を有すること。

(5) 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

第6条 本校の講師となることができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 第4条により本校の教授となることができる者又は前条により本校の准教授となることができる者

(2) 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において教諭の経歴があり、その在職年数が5年を経過した者

(3) 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

第7条 本校の助教となることができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 第4条により本校の教授となることができる者又は第5条により本校の准教授となることができる者

(2) 修士の学位（大学の学部について修業年限を6年とする課程を修了した者については学士の学位）を有する者

(3) 研究所等の在職経験者等、又は特定の分野について知識及び経験を有する者であって、次の要件のいずれかを満たす者

イ 査読ある論文又は報告等があること。

ロ 発明、特許、発見又は設計、考案等について、実績を有すること。

ハ 教育、研究、技術、学事運営等について、修士の学位を有する者に相当する知識、能力又は3年以上の経験年数を有すること。

第8条 本校の助手となることができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 学士若しくは短期大学士の学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）又は準学士の称号（外国におけるこれに相当する称号を含む。）を有する者

(2) 前号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

第9条 設置基準第12条第4号の適用により本校の准教授になることができる者は、第7条に定める評価について次のいずれかに該当する者とする。

(1) 第7条第1項第1号について、査読ある論文又は報告等を2編以上公刊し、そのうち1編以上が過去5年以内に公刊したものであること。

(2) 第7条第1項第2号について、優れた実績を有すること。

コ (3) 第7条第1項第3号について、優れた知識又は10年以上の経験年数を有すること。

第10条 設置基準第13条の2第3号の適用により本校の助教になることができる者は、第7条に定める評価について次のいずれかに該当する者とする。

(1) 第7条第1項第1号について、論文又は報告等を1編以上公刊していること。

(2) 第7条第1項第2号について、実績を有すること。

(3) 第7条第1項第3号について、知識又は5年以上の経験年数を有すること。

附 則

1 この基準は昭和61年4月1日より施行する。

2 この基準は平成14年4月1日改正し、即日施行する。

3 この基準は、平成19年4月1日から改正施行する。

4 この規準は、平成20年4月1日から改正施行する。

(出展 : 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P.82)

(資料3 - 4 - - 2)

「金沢工業高等専門学校教員昇任基準」

○金沢工業高等専門学校教員昇任基準

(昭和61年4月1日施行)

改正 平成19年4月1日 平成20年4月1日

第1条 金沢工業高等専門学校(以下「本校」という。)の教員の昇任については、この基準の定めるところによる。

第2条 本校の教員が講師、准教授又は教授に昇任するための審査は、対象となる教員の教育若しくは研究に関する実績について次の各号のいずれかの評価をもって行うものとする。

- (1) 公刊された著書、論文、報告等
- (2) 発明、特許、発見又は設計、考案等
- (3) 教育、研究、技術、学事運営等

2 前項第1号に定める著書は、論文2編に相当するものとする。

第3条 准教授又は講師から教授になることができる者は、前条に定める審査によって次の各号のいずれかに該当する評価を得た者とする。ただし、審査の対象者が講師であるときは、現職となって3年が経過していなければならない。

- (1) 前条第1項第1号によるときは、査読ある論文又は報告等を3編以上公刊し、そのうちの1編が過去5年以内に公刊したものであること。
- (2) 前条第1項第2号によるときは、2以上の優れた実績を有すること。
- (3) 前条第1項第3号によるときは、博士の学位を有する者と同等以上の知識、能力又は8年以上の経験年数を有すること。

第4条 講師から准教授になることができる者若しくは助教から講師又は准教授になることができる者は、現職となって2年が経過し、かつ、次のいずれかの評価を得た者とする。

- (1) 第2条第1項第1号によるときは、査読ある論文又は報告等を2編以上公刊し、そのうち1編が過去5年以内に公刊したものであること。
- (2) 第2条第1項第2号によるときは、優れた実績を有すること。
- (3) 第2条第1項第3号によるときは、修士の学位を有する者と同等以上の知識、能力又は2年以上の経験年数を有すること。

第5条 本校の教員が現職において博士の学位を取得したときは、この基準の規定にかかわらず、当該教員を昇任させることができる。

附 則

- 1 この基準は昭和61年4月1日より施行する。
- 2 この基準は、平成19年4月1日から改正施行する。
- 3 この基準は、平成20年4月1日から改正施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」P.83)

(資料3 - 4 - - 3)

「金沢工業高等専門学校教員の服務について」

金沢工業高等専門学校教員の服務について

1 教員の使命について

教員は本学園創設の理念に立脚した建学の綱領に基づいて、重要な社会的使命を持っていることを認識し、教育と研究の遂行に不動の努力を重ね、その職務に専念することが使命です。

教員は、学園の名誉と発展を常に念頭に置くとともに、本校教員であることに高い誇りを持たなければなりません。その行為が世間から注目されていることを自覚することが必要です。

教員が矜持をもって、その服務に厳正な行動と節度を保つことは、本校が社会から厚い信頼を寄せられていることから、学生の尊敬を受け教育を完遂するためにも重要なことです。人間形成の場としての学園において、その範となるよう心がけねばなりません。

2 使命の達成について

本校は、わが国の代表的な工業高等専門学校たるべく、その充実発展に学園全体が一丸となって努力してきました。今後、さらにその目標に向け教職員全員が渾身の力を持って邁進していかなければなりません。

この目標に向かう第一歩として、校内における教育研究はもとより、校外における研究等諸活動においても第一級の成果を期し努力しなければなりません。また、その成果は、本校の使命の達成と併せて学園の将来の発展に結び付かねばなりません。

3 本校の教育改革について

本校は従来の教育課程や教育システムを見直し、「自ら問題を発見し、解決する」創造型人材を育成するため、他の高等専門学校では類をみない「ハンズオン(ものづくり)教育」を教育の根幹とする斬新な教育実践を展開しています。学生が中心、主役となる教育環境、教育システムの創生に教員の積極的な参加、取り組みを強く要請します。

附 則

この規定は平成7年4月1日から施行する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」P.83)

- ・本校専任の事務職員は少数ですが、学園が設置運営する教育支援機構の事務職員や技術職員の支援や本校が採用するT AやS Aによって本校の教育課程の運営は適切に行われていると考えています。
- ・英語教員、英語圏出身の専門科目担当教員、特にネイティブ・スピーカーの配置が充実しており、本校が教育の実践目標として掲げている「『英語教育』のさらなる向上」及び「技術のグローバル化への対応に」向けて、教員組織の充実を推進しています。
- ・「『英語教育』のさらなる向上」を推進するために、15名程度の少人数による英語教育を可能とする教員組織体制が構築されています。また、工学と英語の融合を推進するため、専門工学科に2名の英語圏出身のネイティブ教員を配置しています。
- ・毎年実施される校長と各教員との面談によって、校長は、各教員から提出された報告書や授業アンケート等を踏まえて必要な改善点を指摘し、方針を全教員個々に伝えることができます。また、校長は、各教員の現状や思いを十分に把握することができます。

〔改善点〕

- ・教員の評価とその改善に関する指導に校長の負担が大きく、また多くの点が校長に依存されており、改善する必要があると考えています。

〔教育及び研究体制全般に対する評価〕

一部の専門科目については、より実務的な教員の補充によりその充実を目指すこととしていますが、現在、一般科目及び専門科目の教員の配置は、適切に行われており、特に、英語教育に関する教員が充実していると考えています。教員の年齢構成には一部不均衡が見られることから、均衡化を推進しています。なお、斬新的なものづくり教育技法の導入・独自化と成案の推進のためには、若年のネイティブ教員が必要であるため、当面の一部不均衡はやむを得ないものと考えています。また、教員に対する学位取得や留学を含むキャリアアップのための支援など、教員組織の活動を活性化するための措置が講じられています。

教員の採用基準や昇格基準は、「教員任用基準」及び「教員昇任基準」として定められています。

教員の教育活動に関する定期的な評価としては、各教員による「教育の抱負及び実施に関する報告書」の提出、それに基づく校長の評価、校長との面談、各教員の次年度の計画立案に関する「教育改善への取り組みと今年度の目標」の作成、「K T C総合アンケート」や学生の「授業アンケート」の実施などを行っており、校長が教員の活動を把握・評価するシステムが整備され、機能しています。

事務職員や技術職員等による教育支援の体制も学園が設置運営する教育支援機構の事務職員、技術職員によって適切な支援が行われています。

〔改善点〕

教員の配置状況、教員の採用及び昇格の方法、教員の教育活動を評価する体制、及び事務職員、技術職員等の教育支援者の配置の状況を総合的に判断すれば、現時点において相応であると考えていますが、アンケートの有意性評価及び評価とその改善に関する指導に校長の負担が大きく、また多くの点が校長に依存されており、改善する必要があると考えています。